

勤と結論して居る人々のある事を遺憾と思つて居る。
第一に元來日本の労働運動は思想的に追隨し、唯物的、経済的、
だが、夫れは毫も労働組合の本質ではない。労働組合は経済的立場の全
的のものであつて、日本の労働運動は労働者の間隙に突入り、思想的
誘惑を以て過ぎない。日本の労働者は断つて産業を以て祖國を定
道義を排撃するものではない。

日本の資本主義の発達過程に乱舞した心なき資本家諸君の態度は資本
の天地に飛躍した労働運動に、日本の労働者をして、無批判に過去を誤
ちり倒らしめぬのではあるまいか。労働者日本人たる以上好んで、
闘争的、非國家態度を採る者はあるべきではない。無論労働者の自主
を缺き、認識不足はまぬかぬとするも、更に是れを誘導したる諸君の
事態の存在も否定出来ない。

労働者の生活に對する企業家諸君の態度、政府當局の態度等は充分
の考究の必要ありと信ずるのである。

今や日本の現状は、決して労働者が意識的たるも無意識的たるも、國內
に於て階級対立をなすべき秋ではない。又階級的に對立すべき何等の理
由はない。國民的立場に於て、産業上に産業人として日本の産業のため
心からの協力をなすべきであるとの確信を吾々は堅持して居る。

而し乍ら、現在の日本の機構内に於て、労働者の日常生活も將來も、
労働者自からが防衛せざる限り、何人も是れを良くなす事の出来得ない
実情にあるのであつて、此の点は、必然的に時に對立攻撃はまぬかぬや
これは國家が遊んで産業上の統制をなすべきである。

吾が東京聯合會は思想運動華かなりし時以來、思想運動は労働者に對
して決して眞實のものならざるを指適して、幾多の非難中傷の雨を浴び
乍ら、労働組合を守れと労働組合主義を主張して來た。

斯くて昭和六年滿洲問題を楔機として各界の關心は日本に對して、
理解、無謀極まるものであつた、これこそ國民協力の秋であり、産業上
にある勞資こそ協力すべきであると敢然起ち、労働組合の愛國的態度を